

東洋・日本美術史専攻分野

博士課程前期2年の課程 一般選抜 冬期

問一 出題意図

美術史研究の方法論に関する理解度を問う問題である。作品分析が美術史研究においてなぜ重要であるかを、具体的な作品や研究事例を挙げながら論理的に説明できるかを評価する。様式分析、図像学、社会史的アプローチなど多様な方法論への理解と、それらを実際の作品に適用する能力を確認する。

問二 出題意図

退蔵院（妙心寺塔頭）所蔵の如拙筆「瓢鮎図」に付された大岳周崇による漢文の賛を素材とし、漢文の読解力および書き下し文の作成能力を問う。あわせて、「大相公」「江湖墨袖」といった語句の意味内容を正確に把握できるかを確認する。

問二 解答例

「大相公」…足利義持

「江湖墨袖」…禅僧

問三 出題意図

二つの鶴を描いた作品（部分）を比較し、構図・筆法・色彩・空間表現などの相違点を的確に観察・記述する能力を問う。さらに、その違いが生じた背景にある作画思想の差異を分析させることで、作品の視覚的特徴から時代・流派・画家の意図を読み解く美術史的な分析力・考察力を評価する。

問四 出題意図

図版として提示した著名な美術作品について、作者・名称・制作年代などの基本情報を特定できるかを確認するとともに、各作品の歴史的意義を記述させることで、東洋・日本美術史に関する幅広い知識と、個々の作品を美術史の文脈の中に位置づけて論じる能力を評価する。